

# Istanbul Weekly vol.3-no.23

## イスタンブール ウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2014年7月4日（金）

### — 今週のポイント —

- 政治：**エルドアン首相、与党 AKP の大統領候補に。  
「クルディスタン」を含む名称の政党、初めて承認される。
- 軍事：**トルコ海軍、シリア化学兵器廃棄に協力。  
ミサイル防衛システムの提案期限：再々延期。
- 経済：**トルコ企業、12億ドルのイラク市場からの撤退を検討開始。  
第3空港、9月までに財政措置。
- 治安：**警官が国旗を降ろした男に発砲。  
ISIL、カリフ制国家の樹立を宣言。
- 社会：**イスタンブール大市の賃貸物件価格が大幅に上昇。  
保健省、開放空間での禁煙も検討。

### 政治

#### 【8月のトルコ大統領選挙】

#### ●7月1日、AKPは候補者発表

AKPは7月1日、閣僚や国会議員、地方自治体首長ら4000名を集めた会合を開催し、同日11時30分にAKPの大統領候補者氏名を発表するとした。（6月30日付HT紙17面）

#### ●エルドアン首相、与党AKPの大統領候補に

(1) 同首相の40年来の友人であるシャーヒン AKP 党首代理により、エルドアン現首相が国会議員311名の署名に基づきAKPの第12代大統領候補となることが発表された。

(2) 大統領候補に選ばれた後、エルドアン首相はスピーチにおいて、「野党の統一候補（注：イフサンオール元イスラム協力機構事務局長）は、大統領は非政治家であるべきだと主張しているが、これは政治を否定するものである。イノニユ第2代大統領、ギュルセル第4代大統領（注：いずれも軍人出身）がしたように、「後見人制度（注：軍の圧力）」を肯定するものであり、非政治家の大統領を据えることによって、古いトルコの魂を呼び起こせると考えている。」

「（候補に選ばれたことに関し）妻（エミネ夫人）、子どもたちの忍耐、理解、貢献に感謝する」、「これは別れではなく、我々にとって常に新しい始まりであり、オープニングである」旨述べた。（7月1日付H紙22面、2日付HT紙16面）



（7月2日付S紙インターネット版）

#### ●【参考論調】「別れではない」

1日の（エルドアン首相が大統領候補と発表された後の）同首相のスピーチは、完全にAKP支持者、つまり内側に向けたもので、今後さらにどのように運営していくのかについて布石が打たれた。また、同内容の中で、エルドアン首相は大統領に就任した場合に重点を置くテーマとして、①大統領選挙で重要なクルド票の動きに関わるクルド問題和平プロセス、②（注：ギュレン運動を指して）二重国家との闘争を挙げた。そして最も重要な言葉は、「これは別れではない。あなたがたから別れることはなく、あなたがたが後ろに留まることもない」というものであった。

スピーチは二つに分かれていて、後半部分は注目に値するものであった。というのはエルドアン首相はこれまで宗教的な感情が最も高まるイフタル（ラマザン明けの最初の食事）においても行ったことのないような、宗教的な導入箇所を今回のスピーチに含めた。コーランの言葉と今日の生活を繋いだ話をした点において、ライバルの（野党統一候補の）元イスラム協力機構（OIC）事務総長であったイフサンオール氏の影響を受けたのだろうか、「私（エルドアン首相）は（イフサンオール氏よりも）もっと上手な宗教的な話ができる」との認識に繋げるようなスピーチであった。（7月2日付HT紙17面、Muharrem Sarikaya氏）

#### ●エルドアン首相の履歴

1954年2月26日、イスタンブールのカスムパシャ地区生まれ。1973年イマーム・ハティップ校（宗教指導者養成学校）卒業。1977年エミネ夫人と結婚。1981年マルマラ大学経営商業学部卒業。1994年3月、イスタンブール大市長に立候補、当選。1997年12月12日に東部スィルト県における集会の演説の際に読み上げた詩を理由に検察により提訴され、裁判所により禁固10ヵ月実刑判決を受ける。1999年3月にプナルヒサル刑務所に収監され、同年7月24日に釈放（注：特赦が適用された）。2001年8月14

日に公正発展党 (AKP) を結成し、2002 年 11 月 3 日実施の総選挙で AKP は第一党に。2003 年 3 月、東部シールト県選挙区により国会議員初当選。同年 3 月 15 日、第 59 代内閣首相に就任。2007 年、2011 年の各総選挙で AKP は第一党となり、現在は 3 期目。子ども 4 人 (長男アフメット・ブラック、次男ネジメッディン・ビラル、長女エスラ、次女スメイェ)。学生時代には水やスイミット (ゴマ付きドーナツ型パン) を売って歩いていたという。(7 月 2 日付 HT 紙 16 面)

#### ●現首相の大統領就任目標は 1999 年に遡る

新聞記者ビラル・チェティン氏が 2003 年に出版した著書『トルコ政治におけるあるカスmpパシャ出身者：タイップ・エルドアン』28 ページ目に、エルドアン首相が 1999 年当時に刑務所に収監されている時の訪問面会者に対して、政治の最終目標を述べていたことが詳述してある。同書によると、首相は当時、「目前にどんな障害があろうと、一つずつ障害を乗り越える。神のお許しと国民の常識とともに、トルコにおける最大政党を結成し、いつの日か首相の座に就くだろう。首相になる前に死ぬようなことがあれば、後ろ髪を引かれる思いである。神が機会を与えてくれるのであれば、最終的な目標は大統領になることである」と書かれていた。(7 月 3 日付 HT 紙 16 面)

#### ●現首相が大統領就任した場合のポスト首相候補

エルドアン首相が 8 月 10 日の投票において当選するのであれば、8 月 28 日まで AKP 党首を務めた後、首相及び AKP 党首を辞任することになる。その後の AKP 党首と首相候補にアンカラの舞台裏で取り沙汰されているのは、ユルドゥルム首相顧問 (元運輸大臣、議員 3 期目)、シャーヒン AKP 党首代理、アルンチ副首相、アタライ副首相、クルトウルムシュ AKP 副党首、ダーヴトオール外相、ギュル大統領の名前。(7 月 2 日付 HT 紙 17 面)

#### ●野党の動き

(1) CHP 及び MHP の統一候補者、国会に提出  
CHP 及び MHP による統一大統領候補であるエクメレッディン・イフサンオール氏に関する申請書が国会に提出され、正式な大統領候補となった。申請書では CHP より議員 109 名、MHP より議員 52 名、無所属議員 2 名の署名がなされている。CHP の議員の内、21 名はイフサンオール氏に対して署名をしなかった。(6 月 30 日付 HT 紙 17 面)

(2) クルド系政党 HDP は、HDP の大統領候補を同党のデミルタシュ党首と発表。同党首は、「大統領の幻想に捕らわれている人々もいる。(エルドアン首相を指して) 国民の総意というならば、誰が国民であるのかを示そうではないか」と述べた。(7 月 1 日付 HT 紙 16 面)

#### ●ソーシャルメディア上の調査

6 月 16~20 日の期間に行われた大統領候補に関する Twitter 調査結果 (YNK Labs 社実施)。

・Twitter 上のエルドアン首相の大統領候補に関する 21 万 7201 ツイートの内、29% が肯定的に捉えている。

・同様に野党統一候補イフサンオール氏に関する 10 万 6356 ツイートの内、19% が肯定的に捉えている。

・同様にデミルタシュ HDP 共同党首に関する 1 万 2841 ツイートの内、5% が肯定的に捉えている。(7 月 3 日付 HT 紙 16 面)

●夏期休暇先での投票希望者は 7 月 2 日まで住所変更可能  
大統領選挙投票の際に夏別荘等が所在する場所において投票を行いたい場合には、7 月 2 日までに住所変更する必要がある。手続きとしては、まずインターネット上で住所申告書を入力し、選挙日に滞在予定場所所在の住民登録局に住所変更の申請を行う。当局側は一つの申請住所に一人

以上申請があった場合には、チェックのために同住所が請求先となっている水道、電気、電話、ガスといった請求書も申請者に提出を求めることが可能。(6 月 30 日付 HT 紙 17 面)

#### ●今後の大統領選挙日程

・6 月 29 日 (日): 大統領立候補申請の開始。

・7 月 3 日 (木): 大統領立候補申請の締切。

・7 月 11 日 (金): 官報にて大統領立候補者を公表。

・8 月 10 日 (日): 第 1 回投票日。

・8 月 24 日 (日): 決戦投票日:(第 1 回投票で決定しなかった場合上位 2 名の候補者に対して実施される)

・8 月 28 日 (木): 現大統領の任期終了日

※在外トルコ人の投票期間: 7 月 31 日~8 月 3 日(第 1 回)、8 月 17~20 日(決戦投票)

・有権者数 (在外トルコ人も含む): 5542 万 9000 人

・在外有権者数: 合計約 280 万人 (内訳、独 150 万人、仏 60 万人、蘭 45 万人、墺 27 万人、ベルギー 20 万人、米 8 万 5000 人)

(4 月 15 日付 M 紙インターネット版、同 27 日付 TZ 紙 5 面、5 月 7 日付 HT 紙 18 面、5 月 29 日付 HT 紙 21 面、6 月 15 日付 TZ 紙 6 面)

#### ●現大統領、大統領府に早い別れ

ギュル大統領は、任期を迎える 8 月 28 日までイスタンブールに滞在し、アンカラの公式スケジュールが予定されている時のみアンカラを訪問する。7 月 10 日にオランダのマキシマ女王を迎え、翌 11 日には毎年恒例の殉職者等とイフタル (断食明けの最初の食事) をともにする予定。(7 月 3 日付 HT 紙 16 面)

#### 【2015 年総選挙関連】

#### ●AKP の 3 期目議員、総選挙に不出馬

AKP は同党内規則により国会議員を 3 期務めた議員の内 68 名は、来年の総選挙には出馬しない予定。同規則が適用される議員の中には、現閣僚 9 名 (アルンチ副首相、アタライ副首相、ババジャン副首相、ボズダー法務大臣、エケル農業大臣、ヤズジュ税関大臣、ユルドゥズ天然資源エネルギー大臣、チェリック労働社会大臣、チャヴシュオール EU 大臣、チェリック文化観光大臣) が含まれている。また、AKP 副党首のチェリック氏、カプスズ氏、シャーヒン氏も 3 期目を務めていることから同規則が適用される。(7 月 3 日付 HT 紙 16 面)

#### 【トルコ・サウジ関係】

#### ●首相、サウジ国王と電話

エルドアン首相は断食月 (ラマザン) が (6 月 28 日に) 始まったことから、サウジアラビアのアブドゥッラー国王と電話会談を行った。首相府関係者筋によると、両首脳はお互いに断食月を祝う言葉を交わしたとされる。(6 月 30 日付 HT 紙 10 面)

#### 【トルコから見たイラク情勢】

#### ●【参考論調】イラクはイスラエルが望んだ方向に

2003 年に当時いた H 紙のコラムにおいて、「イスラエルは決断をした。イラクは 3 つに分断されるだろう。自治クルディスタンが建てられるだろう」と書いた。当時はイスラエル人学者の論文を読んでいて、イスラエルの大学の研究を追っていた。ほとんどの研究が米国がイラクを占領した後のイラクの状況に関するものであり、その多くは「イラクは 3 つに分断されて初めて国として成り立つ」という結果となっていた。イスラエルがそう主張するのであれば、その可能性は高いと何度もコラムで書いたが、気にする人はいなかった。

今の情勢を見ると、イラクは①世俗のクルド地域、②中央部に ISIL の支配するスンニー地域、③南部のシーア派地域と、3 つに分断する方向に向かっている。北イラク地域政府のバルザーニー大統領の発表では、近くクルディスタンが独立する。1990 年代にバルザーニー氏と面会した後に、私は「(バルザーニー氏は) 米国が許可するなら、この地域(北イラクを指す)において自治クルディスタン地域が建てられると述べた」と書いていた。

(7月2日付 HT 紙 15 面、Fatih Altayli 氏)

#### 【クルド問題・和平交渉プロセス】

#### ●「クルディスタン」を含む名称の政党、初めて承認される

検察庁は、内務省が政党としての許可を与えたトルコ・クルディスタン民主党 (TKDP) を承認し、これにより「クルディスタン」という言葉が名称についた初の政党となった。TKDP はこれまで(北イラク地域政府の)イラク・クルディスタン民主党メスード・バルザーニー首相の支援によりトルコの東部・南東部の政治分野で活動を行ってきており、今年1月に内務省に政党結成申請を提出していた。内務省は政党名に「クルディスタン」という単語が含まれているにもかかわらず、内務省は1月3日に認めていた。検察庁は TKDP の政党名や政党綱領を検討した後、憲法や政党法に違反する内容ではないとして TKDP の政党結成を承認した。(6月27日付 HT 紙 18 面)

#### 【これまでの和平プロセスの流れ】

2012 年 12 月 28 日、エルドアン首相はオジャランとの面会を再開したと発表。(2013 年 3 月 19 日付 H 紙インターネット版)

第 1 回訪問:2013 年 1 月 3 日(木)

BDP 議員 2 名 (アット・トルク、アライ・アカット・アタ)

第 2 回訪問:2 月 23 日(土)

BDP 議員 3 名 (パルメ・イン・ブルダク、スレイマン・オンデル、アルタン・タン)

第 3 回訪問:3 月 18 日(月)

BDP 議員 3 名 (セラハッティン・デミルタシュ、ブルダク、オンデル)

第 4 回訪問:4 月 3 日(水)

BDP 議員 3 名 (デミルタシュ、ブルダク、オンデル)

第 5 回訪問:4 月 14 日(日)

BDP 議員 2 名 (ブルダク、オンデル)

第 6 回訪問:6 月 7 日(金)

BDP 議員 2 名 (デミルタシュ、ブルダク)

第 7 回訪問:6 月 24 日(月)

BDP 議員 2 名 (デミルタシュ、ブルダク)

第 8 回訪問:7 月 20 日(土)

BDP 議員 2 名 (デミルタシュ、ブルダク)

第 9 回訪問:8 月 17 日(土)

BDP 議員 2 名 (デミルタシュ、ブルダク)

第 10 回訪問:9 月 15 日(日)

BDP 議員 2 名 (デミルタシュ、ブルダク)

第 11 回訪問:10 月 14 日(月)

BDP 議員 1 名 (ブルダク)

第 12 回訪問:11 月 9 日(土)

BDP/HDP 議員 3 名 (ブルダク、ドリス・バルケン、オンデル)

第 13 回訪問:2014 年 1 月 11 日(土)

BDP/HDP 議員 3 名 (ブルダク、バルケン、オンデル)

第 14 回訪問:1 月 25 日(土)

HDP/無所属議員 2 名 (オンデル、レイラ・ザナ)

第 15 回訪問:2 月 8 日(土)

BDP/HDP 議員 3 名 (ブルダク、バルケン、オンデル)

第 16 回訪問:3 月 9 日(日)

BDP/HDP 議員 3 名 (ブルダク、バルケン、オンデル)

第 17 回訪問:4 月 26 日(土)

BDP/HDP 議員 3 名 (ブルダク、バルケン、オンデル)

第 18 回訪問:6 月 1 日(日)

BDP/HDP 議員 3 名 (ブルダク、バルケン、オンデル)

## 軍事

### 【シリア関連】

#### ●トルコ海軍、シリア化学兵器廃棄に協力

トルコ海軍は、地中海においてシリア化学兵器廃棄任務支援のために、フリゲート艦「サーリヒ・レイス」の派遣を発表。シリア化学兵器廃棄にあたっている国連共同派遣団は、6月23日、シリアから報告があった化学剤の100%が破壊されたか、シリアから運び出されたかと発表。(6月30日付 HD 紙 9 面)

#### ●ISIL の北シリアでの活動活発化

南東部シャンルウルファ県のシリア側テラビアットにおいて、ISIL が旗を掲揚していることがトルコ側から確認された。(7月1日付 C 紙 14 面)

#### ●【参考論調】ISIL は、トルコに対テロ対策強化を認識させる

ISIL は、トルコの国境警備の脆弱性を再認識させている。ある分析家によると、北イラクから北シリアの要警備国境において、ISIL のような非正規軍に対しては、現在のトルコ軍では効果的に対処できないと指摘。クルドとの戦闘が停止している中、国境監視についての予算が後回しにされていたが、これを復活させる動きがある。軍当局者によると、シリア国境に機動緊急対応部隊の配備が検討されている。



(7月1日付 HD 紙 10 面、Burak Bekdil 氏)

### 【国家転覆企図裁判関連】

#### ●バルヨズ事件

(1)バルヨズ事件で拘束されていたハリル・ヘルヴァジョール准将は、2010 年当時、拘束中ではあるものの最高軍事評議会(通称:YAS)において昇進が決定されていたが、当時の政府の意向により実際には昇進しなかった。同准将は、2013 年 10 月 9 日に釈放されており、昇進の資格は得ているとして 8 月 1 日から開始される本年の YAS に向け、昇進権利の回復を求めている。(6月30日付 C 紙 8 面)

#### 【参考】:バルヨズ(スレッジハンマー:大金槌)事件

2010 年 1 月 20 日付タラフ紙の報道により、2003 年 3 月、軍が政府転覆を企図したとして、軍幹部多数が拘束された事件。

2010 年 7 月 19 日、イスタンブール第 10 裁判所に対し検察が 196 名の容疑者を提訴。

2010 年 7 月 23 日、102 名に対し、逮捕状発布。

2012 年 12 月 16 日、イスタンブール・スィリブリ裁判所において第 1 審開始。

2012年9月21日、第1審判決。325名有罪、36名無罪、3名が別件にて裁判継続。

2013年10月9日、第2審（最高裁判所：ヤルグ・タイ）判決。被告人237名に対し、クーデター未遂罪により有罪、88名に対し再審、被告人36名に対し無罪。

2014年6月18日、憲法裁判所が、バルヨズ事件は刑事手続に瑕疵があったとして、同裁判は再審が必要との判決を出す。

2014年6月24日、第2審において再審判断された88名の裁判がイスタンブール第4重犯罪裁判所により開始。

#### 【防衛装備品関連】

##### ●トルコ製装甲車の事故相次ぐ

トルコ製装甲車「キルピー」（ハリネズミ）の事故が相次いでいる。6月30日、シュルナック県において、同車が横転した。最近半年間で同車の横転によるトルコ軍の人的被害は、負傷32名、死亡3名。地雷に耐えうる強靱な設計であるが、高速で曲がることができないため、運転を誤り横転する事故が多発している。トルコ軍は、現在まで製造元のBMC社に対し468台を発注、293台が納入されている。（7月1日付C紙5面）

##### ●ミサイル防衛システムの提案期限再々延期

トルコ国防相筋によると、中国のミサイル防衛システムを導入する可能性がある入札について、新たな提案の期限を8月30日まで延期する模様。（7月1日付HD紙10面）

参考：経緯

2013年9月 ミサイル防衛システム入札において中国を選択。

欧米の疑義に応じ、新たな提案の提出期限を1月31日とする。

2014年1月 提案提出期限を4月30日まで延長。

2014年4月 提案提出期限を6月30日まで延長。

2014年6月 提案提出期限を8月30日まで延長。

#### 【一般】

##### ●KCK事件により拘束されていた元議員、オジャラン解放を予測

KCK事件により拘束されていたクルド政党DEP元国会議員ハティプ・ディジレ氏は、6月28日釈放され、報道陣に対し、「PKKオジャラン首領は、2015年のネヴルーズ（クルドの春祭りで3月21日）に釈放されるだろう」と述べた。（6月30日付C紙4面）

## 経済

##### ●第3空港、9月までに財政措置

第3空港建設の請負業者の一つであるリマク・グループの会長によると、同空港建設のための財政措置が本年9月までに実施される見通し。同空港建設については、2013年5月3日に行われた入札で、221億5200万ユーロ（付加価値税を含まず）を入札したジェンギズ・コリン・リマク・カルヨン・マパ共同事業グループが獲得。建設作業は、2017年に第1期工事が完了し、9000万人が利用可能となる予定。最終的には、7650万平方メートルの用地に147万1000㎡の広さの屋根で覆われた世界最大級の大きさとなり、6本の滑走路、500機のキャパシティ、7万台収容可能な駐車場を有し、年間1億5000万人が利用可能となる予定。（6月27日付HD紙10面）

##### ●日給最低賃金14ドルは不十分

1日に、本年下半期におけるトルコの最低賃金が改定される。子供を養っていないシングルワーカーの月間最低賃金は、手取りで891リラ（約306ユーロ、414ドル）となり、

本年上半期の最低賃金が846リラであったため、5.3%上昇する。日額では約14ドルで、トルコでの平均月間就労時間が225時間であるから、時給1.35ユーロもしくは1.86ドル。当該金額は、他に稼ぎ手がない家庭にとっては、彼らの基本的なニーズを満たすには不十分な額。

一方、15歳以上の人口は約5700万人であるが、就業している人口は2550万人に過ぎない。公式発表では、270万人が失業者とされているが、他に少なくとも200万人がこの数字に含まれていない。つまり、450万～500万人が最低賃金の収入もない。また、トルコ統計庁によると、最低賃金以下で違法就労している約200万人の未登録労働者が存在。最低賃金額を議論する前に、まずは彼らについて議論すべきである。

なお、EU統計機関Eurostatによると、トルコの最低賃金額は426ユーロで、スペインが789ユーロ、ギリシャが684ユーロである一方、エストニアでは355ユーロ、ルーマニアやブルガリアは200ユーロを下回っている。（6月30日付HD紙10面）

##### ●財務大臣、未納税者への恩赦に反対

30日、シムシェッキ財務大臣が、未納税や罰金に関する恩赦について、党の政策立案者としては指示しつつも個人的に批判していたことを受け、当該項目が案文から削除された。同大臣によると、当該項目が施行された場合の初期総額は、670億ドルに及び、内235億ドルが付加価値税（VAT）、176億ドルが所得税に起因するもの。当該項目については、期限内納付を行った者との間で不平等であると強く批判されていた。（7月1日付HD紙1、10面）

##### ●エルドアン首相、高金利に不満

29日、エルドアン首相は、米国や日本の金利を引き合いに出し、トルコ中央銀行が高金利に設定している政策について改めて批判。同首相は、首相として、中央銀行の政策を受け入れられないとし、トルコから投資家を遠ざけているとしている。（7月1日付HD紙10面）

##### ●トルコ企業、12億ドルのイラク市場から撤退を検討開始

イラクで活動するトルコ企業が、12億ドルの同国市場から撤退を開始している通り、トルコ最大の実業家の団体であるトルコ商工会議所連合会（TOBB）が、同国でのビジネスの維持・確保のための研究（2段階）を立ち上げる。

第一段階である、現在イラクの危険な領域で活動する企業代表者や従業員を避難させる計画について、TOBBはトルコ外務省と調整を開始。第2段階としては、輸出、物流業者が直面している問題に焦点を当てている。

外務省によると、2003年～2009年の間で、75億ドルに及ぶ495プロジェクトをトルコの建設業が引き受けている。また、公式発表によると、300企業1万人以上がイラク全土で活動中。

1日付の報道によると、KRG地域では引き続きプロジェクトが継続しているものの、インド、中国、ヨルダン、イタリアからの労働者は既にイラクから撤退。なお、ムーディーズ社は、イラクにおける危機がトルコの経常赤字と成長率に対して圧力を生じさせており、インフレ圧力も強めていることを強調しつつ、信用格付けに関してネガティブな要因となっていることを明らかにした。（7月2日付HD紙1、10面）

## 治安

#### 【PKK関連】

##### ●クルド人政治家2名が釈放、KCK裁判

(1)ディヤルバクル第2重犯罪裁判所は、クルドコミュニティ・ユニオン（KCK）裁判でクルド人政治家2名（KCKハ

ティプ・ディジレ氏、PKK ヒュサメツェイン・チチェッキ氏)を釈放。ディジレ氏は、1994年に憲法裁判所によって廃止された民主主義党(DEP)の主要メンバーで、チチェッキ氏はディヤルバクル県バール地区の元副市長であった。

裁判官は、同政治家2名が4年半以上も刑務所に拘置されていたことを強調し、釈放に踏み切った。今年に入り、法改正によって、審理前拘留期限が10年から5年に短縮されている。

テロ対策法違反で親クルドジャーナリスト、同活動家や同政治家が逮捕された一連のKCK事件での被告人は、トルコ全体で175名に上る。同裁判所は6月30日に予定されているKCK事件関連で逮捕された被告人32名に対しても判決を出すかと推測されている。(6月30日付HD紙2面等)  
(2)ディヤルバクル第2重犯罪裁判所は、KCK事件関連で逮捕された被告人32名のうち、31名を釈放したが、アブドラー・エフラートン被告人は証拠隠滅の可能性があると釈放されなかった。(7月2日付C紙2面)

#### ●再び道路を封鎖

PKKは、先月ディヤルバクルービンギョル間高速道路を3週間に渡り封鎖したが、1日早朝、再び同高速道路を封鎖。しかしながら、軍警察(ジャンダルマ)、警察が早期にPKK排除作戦を実施し、現場で検問等を行っていたPKKを排除。(7月2日付C紙6面)

#### ●PKK戦闘員が投降

2日、シュルナク県南部ハブル国境検問所に3名のPKK戦闘員が投降。2013年3月21日から現在までトルコ政府に投降したPKK戦闘員は216名に上る。(7月3日付C紙7面)

#### 【デモ関連】

#### ●アレヴィー派がマドマクホテル放火事件の追悼集会

1993年7月2日、シヴァス県内のマドマクホテル放火事件で多くのアレヴィー派が死亡した事件で、アレヴィー派は、2日にアンカラ、シヴァスで追悼集会を実施する予定。(7月2日付C紙7面)

#### 【北イラク関係】

#### ●ISIL、カリフ制国家の樹立を宣言

ISILは、シリア北部からイラク中部にまたがる「イスラム国(IS)」の樹立を宣言した。アラビア語衛星テレビ「アルジャジーラ」などが伝えた。

インターネット動画サイト「ユーチューブ」で配信されたISILのスポークスマン、アドナン師の声明によると、ISIL最高指導者のアバクル・バグダディ師をイスラム教開祖ムハンマドの後継者を意味する「カリフ」に任命。

同声明は「シリア北部のアレッポから(イラクの)ディヤラまで」を「イスラム国」とし、「世界中のイスラム教徒」に対し、バグダディ師をカリフとして認め、忠誠を誓うよう求めている。バグダディ師は「標的はローマであり、全世界がイスラム教国家となるまで戦いを続ける。」と宣言した。ISILはシリア東部からイラク北部のモスルやティクリットを制圧し、バグダッドの北東60キロのディヤラ州に進出している。(7月2日付C紙14面)

#### ●トルコ人トラック運転手解放

6月9日、イスラム過激派グループISILにより誘拐され、その後23日間に渡り監禁されていたトルコ人トラック運転手32名全員が解放された。運転手はアルビルを経由してアンカラに運ばれた。

ISILは、モスル市内を押し収めた後の6月11日に、在モスル・トルコ領事館の49の職員も拉致しており、解放には至っていない。(7月4日付HD紙1面等)



(HD紙インターネット版より)

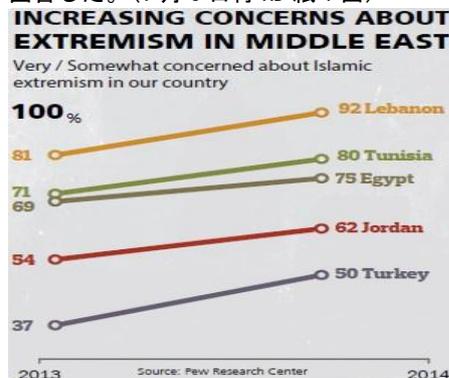
#### 【テロ関係】

#### ●世論調査：イスラム教で過激主義台頭への懸念

米国シンクタンク、ピューリサーチセンターによる最近の世論調査(14カ国1万4200人以上を調査)によると、イスラム過激主義化の懸念が中東から南アジアまで、多くのイスラム教徒を抱える国で上昇していることが分かった。イスラム過激主義への各国の懸念は、シリアで継続している内戦とナイジェリアの過激派、コハラムによる最近の攻撃や誘拐の中、過去1年間で増加傾向にある。

一方、アルカイダ、ヒズボラ、ボコハラムやハマスなどの過激派グループの活動に対する賛同は少なく、トルコ、ヨルダン、エジプトの圧倒的多数派は、アルカイダに否定的な見方を持っており、アルカイダは、調査を行った14カ国全てにおいて否定的に捉えられた。また、レバノンのシーア派グループ、ヒズボラに対しては、トルコで85%、エジプトで83%、ヨルダンで81%が否定的な見解を持っていた。

自爆テロに関しては、エジプトで24%、トルコで18%、イスラエルで16%、ヨルダンで15%が時には正当化されると回答した。(7月3日付HD紙1面)



#### 【一般】

#### ●警官が国旗を降ろした男に発砲

28日、ガーズィーオスマンパシャ市内で、警察署から国旗を降ろそうとした男(28歳)に警官が発砲し、男は足を負傷した。

この男は、警察署の国旗を降ろそうとする前に、同市内の市立病院に掲げられていた国旗を奪い去り、その際にナイフを振りかざしながら、「クルドに自由を」と叫んでいたと言われている。

事件を受け、ムトゥルー・イスタンブール県知事は、「断食(ラマザン)が始まる聖なる日に、我々の輝かしい国旗を汚そうとする者がいることは残念だ。」とコメントした。

(6月30日付HD紙2面)



(HD 紙インターネット版より)

### ●白昼にイスタンブールのバス停で夫が妻を射殺

3日朝、イスタンブール市内サンジャクテペ地区のバス停で、夫が妻を射殺し、その後車内でけん銃自殺を図った。目撃者によると、夫はバス停で妻の口に銃を入れて、引き金を引き、車で逃走したとのこと。その後、夫は自分の車の中で死体で発見された。警察は何らかの理由で夫が妻を射殺した後にけん銃自殺したものともみ捜査中。(7月4日付HD紙3面)



## 社会

### ●イスタンブール大市の賃貸物件価格が大幅に上昇

夏休みや結婚シーズンの開始などの季節的要因により、賃貸物件の需要が高まっている。これは、イスタンブール大市内の全体的な賃貸価格の高騰にも見られる傾向。昨年は、アジア側で一番お洒落な地区とされているバクダット通りで28%、カルタル地区とマルテペ地区で13~20%の賃貸価格の上昇を見た。ヨーロッパ側ではガーズィオスマンパシャ地区で30%、高速E-5とアタテュルク国際空港周辺のあるエリアでは42%まで賃貸価格が上昇。イスタンブール大市内で最も賃貸価格が高い地区は、ベシクタシュ、サルエル、シシリ、アタシェヒル、カドゥキョイ。不動産専門家は、都市開発が進んでいる地区ほど賃貸価格の上昇が特に酷いと話している。(6月29日付H紙)

### ●世界で一番人気の気球スポットはカッパドキア

年間300日も気球バルーン飛行が可能なカッパドキアは、世界一の気球体験の人気スポット。昨年同地域を訪れた43万人が気球飛行を体験、その大部分が外国人観光客だった。年末までに50万人の乗客を見込む気球飛行は、カッパドキアの観光業には欠かせない大事なアトラクションの一つ。(7月1日付HT紙7面)

### ●保健省、開放空間での禁煙も検討

保健省がたばことたばこ関連商品の消費削減のため、禁煙の動きをさらに広げる活動を開始。大規模ショッピングモールや映画館の入り口などにおける副流煙による影響調査、子どもが多く利用する公園での禁煙など、開放空間での禁煙や電子たばこ普通たばこのインターネット販売

を規制することを検討。(7月2日付HT紙4面)

### ●タクシム広場で3千人が食卓を囲む

ベイオール市がタクシム広場に作った「兄弟同胞」食卓で3千人が断食明けの食卓イフタルに参加。参加したのはイスタンブール県知事、イスタンブール大市長、イスタンブールのイスラム説教師、正教会指導層、ユダヤ教指導者ラビ、メディア、アーティスト、市民。参加者はイフタルの後、一緒に祈禱。県知事は宗教の違う人々が同じ食卓で食事をするのは良いことだとコメント。またベイオール市長も、宗教の違う人々が幸せに暮らしているのが同市の特徴であると説明。(7月3日付HT紙22面)

注：本文中の略語の正式名称は以下の通りです。

略語	正式名称	略語	正式名称
AFAD	首相府緊急災害事態対応総局	ÖSB	PKKの防衛隊
AKP	公正発展党（現与党）	OIB	首相府民営化管理庁
BDDK	銀行監督庁	PKK	クルディスタン労働党
BDP	平和民主主義党（クルド政党）	PYD	シリア民主主義連合党
BOT	建設・運営・譲渡方式	RP	福祉党
CHP	共和人民党（最大野党）	RTÜK	ラジオ・テレビ高等機構
DEP	民主党	SNC	シリア国民評議会
DHKP/C	革命人民解放党/戦線	SPK	証券取引監査院
DHMI	国家航空局	SSM	防衛産業庁
DISK	先進労働組合連合	TBB	トルコ弁護士協会／トルコ銀行協会
DTK	民主主義社会評議会	TCDD	トルコ国鉄
DTP	民主社会党	TDHB	トルコ歯科医師会
DYP	正道党	TESK	トルコ商工業連合
EDAM	経済外交政策センター	THY	ターキッシュ・エアラインズ
EPDK	エネルギー市場監督庁	TİKKO	トルコ労働者・農民解放軍
HDP	人民民主党（クルド政党）	TMMOB	トルコ・エンジニア・建築会議連盟
HSYK	裁判官・検事高等委員会	TOKİ	トルコ集合住宅開発局
İDO	イスタンブール海上フェリー会社	TOMA	放水装甲車
İHH	人権・自由・人道支援団体	TPAO	トルコ石油公団
İKSV	イスタンブール文化芸術財団	TTB	トルコ医師会
İSO	イスタンブール産業会議所	TÜBİTAK	トルコ科学技術研究機構
işİD	イラク・レバントのイスラム国（アルカイダ系）	TÜİK	トルコ統計庁
İTO	イスタンブール商工会議所	TÜPRAS	トルコ石油精製会社
KCK	クルディスタン共同体同盟（PKK系）	TÜSİAD	トルコ産業・実業家協会
KESK	公務員労働組合連合	TÜYİD	トルコ投資家関係協会
KRG	北イラク政府	YÖK	トルコ高等教育評議会
MHP	民族主義者行動党（野党）	YSK	選挙高等委員会
MİT	国家諜報機関		

注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞		英字新聞		通信社	
Akşam	A	Economist	EC	Anadolu News Agency	AA
Cumhuriyet	C	Herald Tribune	IHE	Agence France Presse	AFP
Haberturk	HT	Hürriyet Daily News	HDN	Cihan News Agency	CA
Hürriyet	H	Today's Zaman	TZ	Doğan News Agency	DA
Milliyet	M			Ihlas News Agency	IA
Posta	P			Interpress	IP
Radikal	R				
Sabah	S				
Taraf	T				
Vatan	V				
Zaman	Z				

**在イスタンブール日本国総領事館**

電話：0212-317-4600

FAX：0212-317-4604

E-Mail：istanbulweekly@it.mofa.go.jp

WEB：http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index\_j.html

Facebook：http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu

- トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。
- 新たに配信希望される方、あるいは今後の配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。  
[istanbulweekly@it.mofa.go.jp](mailto:istanbulweekly@it.mofa.go.jp)